

紫波医報

令和8年1月号（追悼特集）

No. 249



一般社団法人紫波郡医師会

- URL: <https://shiwa-med.jp/>
- E-mail : ishikai@shiwa-med.jp
- TEL : 019-611-2211 ● Fax : 019-611-2216

紫波医報 目次

◇ 巻頭言「加藤会長の後任として」	野崎 有一 先生	…	2
◇ 追悼「加藤 博巳先生」ご略歴		…	3
◇ 葬儀委員長式辞	野崎 有一 先生	…	4
◇ 弔辞 岩手県医師会 会長	本間 博 先生	…	5
◇ 弔辞 紫波郡医師会 顧問	木村 宗孝 先生	…	5
◇ 弔辞 紫波町国民健康保険事業運営協議会 会長	中野 洋一 様	…	6
◇ 加藤博巳先生を偲んで	紫波郡医師会会員	…	8
◇ 加藤博巳先生の過去の原稿から		…	12
◇ 医報はなまきH13.6.30「よこがお」より	藤巻 英二 先生	…	15
◇ 表彰受章者		…	17
◇ 紫波郡地域包括ケア推進支援センターから	伊藤 信一 参事	…	18
◇ 編集後記	齊藤 恵 先生	…	19
◇ いわて医師協同組合広告		…	

表紙の言葉

写真：撮影日 2025年1月19日
網張スキー場付近から岩手山を撮影

この日の網張の山は、霧氷をまとった木々に覆われ、凜とした冷たい空気の中で煌めいていました。

この、美しく静寂な青と白の世界は、天の国の冬景色を想像させます。

加藤博巳先生、大変お世話になりました。

今頃、先生は「楽しくないとね。」とおっしゃりながら、遠い天空の冬を楽しんでいらっしゃると思います。

心から御冥福をお祈りいたします。

ありがとうございました。



紫波郡医師会 会長付参事 伊藤 信一
(紫波郡地域包括ケア推進支援センター所長)

巻頭言

「加藤会長の後任として」

紫波郡医師会 会長 野崎 有一



新春を迎え、皆様どのようにお過ごしでしょうか？正月生まれの小生は、とうとう前期高齢者の仲間入りです。令和も8年目を迎え、つい先頃令和に改元したと思っておりましたが、今更ながら月日の経つのが早いのに驚きます。

昨年、加藤先生が逝去するという予期せぬ事態に遭遇し、期せずして会長職をたまわりました。会長になって変わったことと言えば、会議参加が多くなりました。しかし、大変なことばかりではありません。県医師会の素晴らしい先生方と話すことができ、脳の刺激になります。それから、私になんにもしなくても意外に物事が淡々と運ぶことに驚いております。これは、事務方の業務遂行能力のおかげです。最低限のこととして、迷惑メールの中から大事なメールを探しだし、きちんと確認するだけです。“Here comes the sun!” 日の光さえあれば、なんとかなるだろうと日々を過ごしております。

私は4号線を車で通勤しますが、ついさっきまで一緒に走行していた車が、ふと気がつくといなくなってしまうことがよくあります。いったい、どこに行ってしまったのでしょうか？そんな他愛のないことを考えながら、毎朝必ず加藤内科医院の前を通ってきます。

以前ですと朝早く診察を待っている車が多数駐車しておりました。最近では、一台も駐車して

おらず、閑散としております。悲しい気持ちもありますが、寂しさが一番です。隣のコンビニに寄っても、何か加藤先生が近くにいるような気がして、遠くから旧医院を覗いてみたりします。一日に1回は思い出しております。

もうひとつの変化として、昨年9月以来、加藤先生の患者さんが、当院にも多数来院されました。いきなり、情報のない患者さんがいらして、戸惑いがありました。時間もかかり、沢山お小言をいただきました。加藤先生は、自ら血圧をはかってくれたとか、聴診器を必ず当ててくれたとか、いろいろ教えてもらっています。そんなときには、いつも理事会の去り際に「大変だけど先生も頑張ってるね。」と云う加藤先生のねぎらいの言葉を思い出します。熊もコロナもインフルエンザも大変ですが、“We can work it out.” 多分うまくいきます。

最後に本年、理事の改選があります。理事を引退する先生もおられるので、若い先生方に加わっていただく必要があります。これを機会に次の世代に繋いでいくのが私の使命だと思っております。月並みですが“Let it be. Let it be. Let it be.” 皆様のお力を借りながら、なすがままに紫波郡医師会を運営していきます。

本年もよろしく申し上げます。

追悼 加藤博巳先生



加藤 博巳 先生 ご略歴

昭和 32 年 3 月 18 日 岩手県紫波郡紫波町にて出生
令和 7 年 9 月 1 日 ご逝去（享年 69 歳）

【学歴】

昭和 58 年 3 月 岩手医科大学医学部卒業
昭和 62 年 3 月 岩手医科大学大学院修了 医学博士号甲号取得

【職歴】

昭和 58 年 4 月 岩手医科大学第一内科学講座入局
昭和 62 年 3 月 岩手県高次救急センター 助手
平成 2 年 1 月 秋田厚生連鹿角組合総合病院消化器科内科 科長
平成 5 年 7 月 花巻温泉病院勤務（兼岩手医大第一内科助手）
平成 10 年 11 月 花巻温泉病院医局長（兼岩手医大第一内科助手）
平成 12 年 4 月 花巻温泉病院医局長（兼岩手医大第一内科講師）
平成 14 年 4 月 加藤胃腸科内科医院 院長

【役員歴】

平成 20 年 4 月 紫波郡医師会 理事
平成 26 年 4 月 ” 副会長
令和 6 年 5 月 ” 会長

【表彰歴】

令和 7 年 8 月 岩手県国民健康保険団体連合会理事長表彰
令和 7 年 9 月 叙勲 従六位旭日双光章

【岩手県関係他】

盛岡圏域医療連携推進(地域医療構想調整)会議委員
盛岡地域メディカルコントロール協議会委員
盛岡赤十字病院地域医療支援委員会委員
盛岡地区二次救急対策委員会
盛岡地域産業保健センター運営協議会委員
岩手県立中央病院地域医療連携委員会委員
岩手県県央保健所運営協議会委員
岩手県医師会保険問題協議会委員
いわて医師協同組合総代

【紫波町関係】

紫波町国民健康保険協議会委員
紫波町保健センター運営協議会委員
紫波町安心ネットワーク推進協議会委員
紫波町学校給食センター運営委員会委員
紫波町予防保険健康被害調査委員会委員
紫波町立古館小学校学校医

追悼 加藤博巳先生

「式 辞」

紫波郡医師会・加藤家合同葬儀
 葬儀委員長 野崎 有一
 (紫波郡医師会 副会長)

葬儀委員長を仰せつかった紫波郡医師会の野崎でございます。

本日は、ご多用中のところ 故 加藤博巳先生のご葬儀に多数ご会葬いただき感謝申し上げます。

さる 9 月 1 日 加藤先生の突然の訃報に接しました。先週の紫波郡の講演会では、いつもとかかわらずお元気でしたので、しばらくは信じることができませんでした

ご家族のお話では、家族団らんの後、静かにお休みになられ、ほとんど眠るように息をおひきとりになったとのことでした。

突然のことでご家族の心痛はいかばかりでしょうか。心よりお悔やみ申し上げます。

先生は、生前、岩手医大第一内科と高次救急センターに在籍し、磨いた医療技術を遺憾なく地域医療にささげてきました。経験に裏付けされた見識は、私にとって尊敬する医師の一人です。

明るく気さくでお話好きで、診療のこと、医院経営のこと等、丁寧にご指導を受けてまいりました。そして、いつも別れ際に大変だけど頑張る様にと励ましの言葉をかけてもらっておりました。

残された私ども紫波郡医師会は先生の担ってきた紫波郡の地域医療を守っていきたくと思っています。

どうか安らかにお休みください。

合掌

令和 7 年 9 月 6 日



追悼 加藤博巳先生

「弔 辞」

岩手県医師会 会長 本間 博



故加藤博巳先生の御霊の前に、岩手県医師会を代表し、謹んでお別れのご挨拶を申し上げます。先生の突然の訃報に接し、私ども県医師会会員は、かけがえのない指導者を失った深い悲しみと空しさに茫然と戸惑うばかりであります。

先生は、昭和 58 年に岩手医科大学を卒業されたのち、第一内科に入局され、昭和 62 年に高次救急センター助手、平成 2 年に秋田厚生連鹿角組合総合病院消化器科内科科長、平成 5 年に花巻温泉病院勤務となり、第一内科助手・講師兼務として、岩手医科大学に勤務されて以来、地域医療の発展、医療人材の育成にご尽力されました。

平成 14 年には、お父様が開業されておられました「加藤内科医院」を承継し、「加藤胃腸科内科医院」として開業され、「内視鏡」「超音波」「循環器」の検査・検診対応施設として住民からの絶大な信頼のもと地域に密着した丁寧な診

療を展開され、住民に愛される形で地域医療を支えて頂きました。

医師会においても、平成 20 年より紫波郡医師会理事、平成 26 年に紫波郡医師会副会長、令和 6 年には紫波郡医師会会長として就任いただき、会長である私にとっては、誠に心強く頼もしい存在でありました。先生のご功績はあまりにも多く、私ども後に続く者として改めて感謝の気持ちでいっぱいでございます。

ご遺族の皆様には、突然の悲しみにどれほど心を痛めておられるかとお察しいたします。どうかご自愛のうえ、少しでも心穏やかに過ごされますようお祈り申し上げます。

加藤先生の突然の訃報に接し、悲しみと喪失感は言葉に尽くせませんが、先生のご功績に深く敬意と謹んで哀悼の意を表し、弔辞といたします。合掌

令和 7 年 9 月 6 日

「弔 辞」

紫波郡医師会 顧問 木村 宗孝



9 月 1 日の朝、加藤博巳先生の突然の訃報に接し、驚きと悲しみの想いに愕然として、それ以降、屈託の日々を過ごしています。博巳君と私は同い年でした。初めて知り合ったのは仙台の予備校の入寮試験で隣の席となった時、共に同郷が岩手であり高校で柔道部であった事から意気投合し、それ以来、挨拶や会話を交わす仲間となりました。岩手医科大学に入学してからは共に柔道部で汗を流しました。博巳君は恵まれた体躯で無双を誇り、昭和 52 年の東日本医科学学生体育大会では 17 年振りの団体優勝の立役者となりました。あの時の感動は今でも青春の一番の思い出として、記憶に残り続けています。博巳君はその後、岩手医科大学第一内科に入局され、消化器内科専門医として 病院勤務を経験された後、平成 14 年御尊父の開業されていた医院を継承され、「加藤胃腸科内科医院」として地元住民からも信頼され活躍されていました。医師会活動では、平成 20 年より紫波郡医師会

理事に就任、平成 26 年に私の紫波郡医師会会長就任に伴い副会長職を承諾され、以来 10 年間紫波郡医師会を支えて頂きました。誠に感謝申し上げます。令和 6 年、私の後任として紫波郡医師会会長に就任、当初会長職は 1 期 2 年のみと話されていましたが、本年 8 月の郡市医師会会長会議終了後、「現状に鑑み、もう少し長く続ける必要がある」と話され、私も安堵していた処でした。「私の父は 78 歳で永眠しているので、その歳までは頑張りたい」と話されていた加藤博巳君、いくら病いとは云えこの様な突然のお別れになるとは本当に悔しく、残念で仕方ありません。御遺族の方々にも心の中いばかりかとお察し申し上げます。さぞお力落としと思いますが、ご冥福をお祈り申し上げますと共に皆様のご自愛を切望するものであります。さようなら加藤博巳君、私はもう少し頑張るつもりですが、その後はまた仲良くやりましょう。

合掌

令和 7 年 9 月 6 日

追悼 加藤博巳先生

「弔 辞」

紫波町国民健康保険事業運営協議会
会長 中野 洋一

加藤博巳先生のご霊前に、紫波町国民健康保険事業運営協議会を代表して、慎んでお別れの詞を申し上げます。

9月1日、町役場から加藤先生が急逝されたことを告げられ、信じられませんでした…。8月19日の会議では、加藤先生はいつものようにこやかで、熱心にご助言をいただきました。病気は早期発見早期治療が肝要であること。そのためには継続した健康診断が大切で、異常が見つかったら精密検査を受診すること。このことが健康寿命を延ばすので国保事業の使命は重要であることをご教示いただきました。

加藤先生のご指導のおかげで、紫波町では国保特定検診受診率が現在50%を超え、岩手県内市町村でも上位に入っています。健康寿命が延びれば保険給付費も抑えられ、国保事業は健全財政になります。

加藤先生には町運協の保険医代表委員として16年間に亘りお務めいただき、8月29日の岩手県国民健康保険フォーラムでは、国民健康保険功労者表彰を受賞されました。

今後とも末永くご指導を賜りますことを願っておりましたのに、御逝去されましたことは本当に残念でなりません。

加藤胃腸科内科医院の口コミをインターネットで拝見すると、加藤先生がいかに患者さまに

信頼されているのかが判ります。その一例を紹介します。

「胃に激痛が走り、嘔吐、冷や汗、脈も速く熱も上がりどうしようもなく救急搬送されたのですが、運ばれた総合病院では検査をするも『便秘』と一言。処方された薬を飲んでも、痛みをはじめ何も収まらず…翌日になり加藤胃腸科内科医院を受診すると、丁寧な診察と検査で、通常より数値が高い項目があるから急いで大きな病院へ行くよう紹介状を書いていただき、別の総合病院で再度検査をすると『腎盂炎・胃痙攣』と判明。入院をする一步手前だったと言われました。加藤先生を受診していなかったら、どうなっていたかと思うと感謝の気持ちでいっぱいです。」とあります。この他沢山の口コミが、加藤先生の診療がいかに的確で、メンタルケアが行き届き、患者さまを安心させるものであるかを物語っています。

加藤先生の思い出はやさしさと情熱です。加藤先生からいただきましたご指導を忘れることなく、これからも町民の皆さまの健康を護ってまいります。加藤先生、長い間のご指導、本当にありがとうございました。

ご冥福を心よりお祈り申し上げます。合掌

令和7年9月6日

～加藤博巳先生を偲んで～



紫波郡医師会会員より
(五十音順)

「巨星墜つ」

ふるだて加藤肛門外科クリニック 院長 加藤 典博

巨星墜つ！加藤博巳先生の悲報を聞き、驚愕と悲しみとともに先生の偉大な功績と大きな体格とが重なり合い、この一言が心の中に浮かんできました。

37年前に秋田県の鹿角組合総合病院に、先生は消化器内科医、私は消化器外科医としてそれぞれ赴任しておりました。先生の間人味のある診療とフットワークの良さに加え、確かな内視鏡検査の技術で多くの患者を紹介していただき、お陰様で私の外科医のスキルを高めることができました。また仕事の後は夜の街に二人で繰り出し、朝方まで飲み歩いたのも良い思い出です。

その後、私は2000年に現在の紫波町にクリニックを開院し、間もなく先生もお父様の達夫先生の医院を継承しました。親戚で近所でもありましたので診-診連携で多くの患者様を紹介

しあってきました。また、15年前には私の膀胱癌を見つけていただき、術後の経過観察と共に健康管理もしていただいておりますのに、私より若くして先に逝かれてしまい、世の不条理を感じます。

これからも紫波郡の医師会長として会員のため、また地域住民のために邁進されることを願っていましたが、本当に残念でなりません。私は先生の素晴らしい業績を称え、深い悲しみに浸りますが、同時に、先生の遺産を胸に、もう少し残された時間を精一杯過ごし、この間の出来事を冥途で大杯を傾けながらご報告いたしたいと思います。

ご冥福を心からお祈りします。加藤博巳のことは決して忘れません。ありがとうございます。合掌

「お別れの言葉」

川守田医院 院長 川守田 安彦

故加藤先生を偲び、謹んでお別れの言葉を申し上げます。

先生との最初の出会いは医師会の懇親会でした。その時の豪快なご印象と、会を重ねるごとにお話しされ冒険談や柔道部の出来事、出張病院での興味深いやりとりなどに、私たちは皆、引き込まれていきました。

先生は、私たちPPIや膵炎治療剤、腎性貧血注射剤などの適応について、いつも懇切丁寧に教えてくださいました。特に救急医学において

は深い造詣をお持ちで、貴童な経験や珍しい症例を教えてくださいましたことは、今も鮮明に心に残っております。

いつも元気はつらつとされ、その豪快な笑顔で周囲を明るくしてくださった先生との突然のお別れは、まことに残念でなりません。

先生の温かいお人柄と、医師としての情熱を深く胸に刻み、ご冥福を心よりお祈り申し上げます。安らかに眠りください。合掌

「加藤先生を偲んで」

志和診療所 院長 城戸 正美

あの日、先生の突然の訃報を聞き、しばらく絶句してしまいました。

先生の暖かいお人柄と丁寧な御指導は忘れません。医療業務にける情熱はまさに人間蒸気機関車で、まさしく昭和人という印象でした。

食欲も旺盛で、医師会の時、小食の先生から自分の弁当も食べてくれと頼まれると「まかせて下さい。」と気持ちよく二人分を平らげていた光景が懐かしく思い出されます。

思えば余りにも役職過多で、多忙が過ぎたという状況でした。ごゆっくりお休み下さいというのがこれ程当てはまる方は他におられません。心からご冥福をお祈りいたします。合掌

「贈る言葉」

紫波郡医師会 顧問・医療法人社団帰厚堂 理事長 木村 宗孝

令和7年9月1日朝、勤務にて老健施設 敬愛荘に到着すると、程なく紫波郡医師会 菅原事務局長から入電があり加藤博巳会長が急逝されたとの報告があった。「そんな馬鹿な」突然の話に啞然となるも、取り敢えず遺体が安置されていると云うシンセラホール紫波に急行した。其処には穏やかな表情で寝相良く寝入っている様な姿の彼、加藤博巳先生が垣間見えた。合掌、末期の水の後、ご遺族となられた奥様、御令嬢、御子息と懇談し、昨晚まで平常通りで入眠中の急逝であった事(後に急性心筋梗塞と判明)、今後の医院の事などを話し合い、再度合掌しお別れをした。この小文は紫波郡医師会報掲載でもあり、学生時代、柔道部時代の事を書き出すと取り留めがなくなりそうなので、彼が医師会長になるまでと、その後の経緯について紹介したいと思う。

令和6年3月18日、紫波郡医師会理事会終了後、彼と二人で話し合った。「私は紫波郡医師会会長を5期10年勤めたが、県医師会副会長との兼任は時間的制約もあり困難を生じている。次期紫波郡医師会会長を何とか引き受けてもらえないか」菅原事務局長からは加藤先生は会長職について逡巡していると聞いていたので、逆に胸襟を開いた形で率直に要請した。彼は10秒程度間を置いて深く息を吐いた後、「1期だけですよ」とだけ不承不承応えてくれた。彼は私の会長時代の10年間、副会長として見事に支え続けてくれた。郡市医師会長の役割とは昔の村長さんに近く、細々とした軋轢や行政との調整を差配する事が主体で、人望があり会員からの信頼も厚い彼にとって最適の仕事と今でも思っている。同年5月13日紫波郡医師会総会において、正式に加藤博巳新執行部が成立された。

令和6年6月10日、加藤医院を来訪した。紫波郡医師会内の情報や注意点、紫波町・矢中町の動勢、岩手医科大学の動向等を報告し、お互いの状況についても話し合った。彼はランニングに下衣、素足と云う軽装であったが、両手両足に紫斑が浮き出ており、加齢による変化のものとは思われず「どうしたの？大丈夫？」と尋ねたが、お茶を濁す様な事しか答えず、「親父は78歳まで頑張ったから、そこまでは頑張らないと。」と答えるのみであった。何か体調が悪いのではと思いつつも私自身60歳を越えてから2~3度の入退院を繰り返しており、お互い様かと思いつつながら医院を後にした。

令和7年8月2日、生前に対面した最期の日である。郡市医師会長会議は県医師会館にて2ヶ月毎に開催される。郡市医師会長と県医師会執行部と合同で議事が進行され、終了後懇親会の場が設けられている。彼とはこの懇親会で状況報告するのだが、懇親会不参加の事もあり会う機会は限られていた。この日は彼も参加し、彼から私のテーブルに来ていろいろ会話も出来た。「紫波郡医師会の現状では、会長職を長くやる事になるかも知れない」と彼から話し出し、「良かった、やる気を出してくれた」と内心歓喜したのだが、二言三言話した後私は席を放れ他のテーブルの他の会長の処に席を移してしまった。彼はもう少し話をしたそうだったのに。再び席に戻るが彼の姿は見当たらず、帰ってしまった様だった。同年9月1日急逝の報を知らされた時から、この最期の場面を今でも一番悔いを感じている。そして、体調面でもう少し突っ込んだ話をしていたらと云う悔いもある。加藤博巳先生に贈る言葉は私にとって「感謝」と「悔恨」の二文字である。合掌

「加藤博巳先生へ贈る言葉」

三愛病院附属矢巾クリニック 泌尿器科長兼透析室室長 鈴木 徹

加藤先生には、2024 年度から紫波郡医師会理事会で大変お世話になりました。

毎月開催される定例理事会は私にとってとても楽しい時間でした。

紫波郡医師会長として様々な検討課題もあり、医師会や行政との会議も多く、消化器内科医としても多忙な日々を過ごされていました。

そのような状況でも、定例理事会終了後には雑談として楽しい話を沢山してくれました。学生時代の柔道部での武勇伝や女性に飢えていた

話、岩手医大救急センター勤務時代の信じられないような希少な症例の話、医師と看護師間でのディープな恋愛話など。話題も豊富で、楽しい時間を共有させていただき感謝しています。

天国でも明るく朗らかな笑顔トークで人々を笑わせ和ませていることと思います。

短い間でしたが、私の人生の中で先生と巡り合うことが出来て幸せでした。

今まで本当に有難うございました。合掌

「敬愛する加藤博巳先生へ」

高宮消化器科内科医院 院長 高宮 秀式

先生の突然の旅立ちはいまだ信じる事ができません。

10 数年前に突然父を亡くし当院を継承した後から、様々なご指導やサポートをいただき心から感謝申し上げます。先生は私たち医師会所属の医師の長としてだけでなく、岩手医大の尊敬する先輩として、常に私の模範であり目標でした。

先生の知恵と温かな励ましは、私にとって永遠に消えることのない光となります。

先生の精神は私たちがこれからも続けていく仕事の中で、引き続き生き続けます。

先生が平穩に休まれることを願い、永遠に感謝しています。合掌

「加藤博巳先生の思い出」

紫波整形外科クリニック 院長 多田 広志

加藤博巳先生には、柔道部 OB として学生時代からお世話になりました。私が岩手医大に入学した当時、部員がおらず廃部寸前の状況でしたが、加藤先生には毎回コンパに来て頂きました。

寄付金集めに、アポイントを取り忘れて突然クリニックに伺ったにも関わらず、ニコニコしながら対応してくれたのを覚えています。応援のおかげで最後は東医体優勝を果たしました。

開業の際には、盛岡市医師会の説明会への出席を忘れてしまい、後日、紫波郡医師会から、

加藤先生が代わりに出て下さいましたと連絡を受けました。加藤先生にお詫びに伺うと、いつもの笑顔で大丈夫だよと優しく言って下さいました。

加藤先生の訃報を受け、友人と葬祭会館にお別れに行った時のことです。帰り道、「今週またね」と言われ、何のことか分からず聞き返すと、数日後の会合の約束をすっかり忘れていたのでした。

それが、加藤先生から忘れっぽい私への最後の優しいご指導のように思われました。合掌



「加藤博巳先生へ贈る言葉」

社会福祉法人爽生会シェーンハイムやはば 施設長 沼里 進

加藤博巳先生におかれましては、平成28年に当爽生会評議員に就任され、大変ご多忙の中、令和6年開所の当特別養護老人ホーム爽の嘱託医として、週1回の定期回診と随時の対応等、ご尽力頂きましたご功績を偲び、深い感謝の意を表します。

加藤先生と当老健施設勤務となった小生との出会いは、私の不在時に診察を依頼したのがきっかけで、いつも快く引き受けていただきました。加藤先生と直に接していた職員の印象は、「大変幅広い人脈があり、様々なことを経験され、すごく物知りと感心することが多く、気さ

くで気取らず、とてもやさしい先生。年中、素足で汗をかき、息切れして、しんどそうでも、笑顔絶やさず、どなたにも、安心感をもたらす声掛けで、診察も、的確でわかりやすく説明し、支持をしてくれる。」との感想です。お人柄が偲ばれます。

なお、博巳先生の御尊父の達夫先生は、小生の盛岡赤十字病院勤務時代に大変お世話になった大先輩でもあり、当老健施設長も務められ、加藤親子2代にご縁がありました。有難うございました。合掌

「親愛なる博巳先生へ」

はこぎき脳神経外科クリニック 院長 箱崎 誠司

博巳先生、あまりにも早すぎます。まだまだこれからご一緒したかったのに…

僕が先生と交流を持たせていただくようになったのは、先生が医院を継承され、あまり時間がたっていない頃だったと思います。

製薬会社の講演会で一緒になった時に、懇親会の後『行くがあ』と声をかけていただき、『行きます、行きます！！』と二つ返事でお供させていただきましたのが最初だったと思います。その後もときおり『行くがあ』とお声を掛けていただき、いつも御一緒させていただいたのは、大通りの2階の高級店でした。先生はいつものおもしろ爆笑トークでみんなを沸かせていました。

その店が閉店してしまい、そのあとは菜園の5階のスナックにもたびたび御一緒させていただきました。そしてしばらく後には、八幡町の裏の小料理屋で二人で飲みましたっけ。そのあとコロナが流行し、講演会もなくなり、外でお会いすることもなくなりました。コロナが落ち着いてきて、また、小料理屋に行きましようと話していたのに、先生が医師会長となり多忙となったため、結局は行けずじまいでした。

まだ、小料理屋は頑張って営業していますよ。また、先生の話聞きながら一献傾けたかったな…と寂しさが込み上げます。合掌

「加藤博巳先生の思い出」

岩手県対がん協会 専務理事 診療部長 村上 晶彦

いつも明るく、加藤博巳先生の周りは、会合でも明るい笑い声が目立っていました。加藤先生のテーブルにいと会話の中心は先生で、皆がそのテーブルに入ることを望んでおりました。

岩手県対がん協会では、地域集団検診の超音波検査の読影委員もしていただき、大変な貢献

をしていただきました。体形から、おおらかな性格に見えましたが、決しておおざっぱな事はしないで緻密でありました。

対がん協会が矢巾に移転して「すこや館」の事業開始で挨拶に伺った時も、気さくに対応していただき、さらに、矢巾町で胃がん内視鏡検診を始めることに対して、計画性を持ったアド

バイスを受け今年で4年目となり、順調に検診事業が進んでおります。本当に感謝いたしております。そして、対がん協会すこや館の矢巾町の検診で、受診者さんを紹介した返書もキチンとしておりました。

紫波郡医師会長になり、これから益々のご活躍を期待しておりましたが、誠に残念です。

どうぞ、安らかにお休みください。合掌

「落語家 管家腸之輔 (くだやちょうのすけ) 逝く」

渡辺内科医院 理事長 渡邊 立夫

加藤博巳先生は、高校生時代は柔道でインターハイに選ばれ、大学生時代は東医体では負け知らず、医師になってからは消化管の内視鏡の名人と評判の先生でした。

紫波町に開業されてからも人気があり、町内1~2と言われるぐらいの盛況でした。

しかしながら、それ以外にも秀でた才能があり、それが人を引きつけて放さない話術でした。

私が紫波郡医師会の勉強会の担当していた頃、岩手医科大学の先輩で、福島県で在宅ホスピスを行なっている先生に紫波郡医師会の一般講演会をお願いしたことがあります。私は急に県医師会の会議が入り、講演後の接待役には、当医師会一番の話上手の加藤博巳先生にお願いしました。接待は小さなイタリアンレストランで午後1時頃から、長くても午後3時位で良いだろうと考え、帰りの新幹線は午後3時台で取ってありましたが、加藤博巳先生のお話しが面白く、「まだ、帰らない。」と言われ、帰られたのは何と9時台の最終の新幹線でした。

この先輩は、学生時代は空手部でトゲトゲに

尖っていましたが、久しぶりにお会いしたら角が取れてまん丸になり、柔和な顔になっていました。そうは言っても私は警戒して、加藤博巳先生には「機嫌を損ねないようにくれぐれも気をつけてね。」と注意していました。同伴した者の話しでは、加藤博巳先生は母校岩手医科大学に関して、CIA並の情報網と文春砲並のスキヤンダルとそれに下ネタを交えた話術を駆使され、先輩は帰られるまでの間、涙を流して苦しいと言うほど笑い通して「まだ、帰らない。」と言ったのだそうです。

加藤博巳先生は名医として人生を終わられましたが、もしも医師の道を選択しなければ今頃は立派な落語家になり文化勲章・人間国宝にもなっていたかもしれません。多くの才能を持ちながら、家に縛られ医師にならざるを得なかった例は数多くあります。

僭越でしたが、先生の御専門の内視鏡にかこつけて芸名を勝手に付けさせて頂きました。先生のお話しをもう聞くことができないかと思うと寂しくて仕方がありません。合掌

○事務局より○ 加藤先生の待合室には、歴史書、推理小説、専門書等、数えきれないほどの書物が並び、豊富な読書歴が語彙力の高さを物語っておりました。会報にも多数のご寄稿を頂き、ご執筆は先生、データ入力はお様と仲睦まじい姿が微笑ましく、お子様方の良きパパとしても優しさがあふれている様子でした。



20年程前の紫波医報の写真から、県医総会、野球大会、ゴルフ大会の企画を通してご一緒させていただいたことが懐かしく思い出されます。コロナ感染症との戦いも記憶に新しく、医師会運営をはじめ、多方面にわたる地域行政との関わりにおいて、本当に長い間お世話になりました。今でも、東根山の向こうから見守ってくださるような気がします。いつか先生の描くお話の続きをうかがえますように。

感謝とともに、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

加藤博巳先生 過去の原稿より

紫波医報 2024.7 No.246 巻頭言：「会長就任にあたって」

紫波郡医師会 会長 加藤 博巳

この度新会長を仰せつかりました加藤です。歴代の先生方は、人格や能力等に優れ、多岐にわたりご活躍をなさっていました。いろいろな状況に対応をしていくためには、会員の先生方の協力や、各医師会そして各行政等とのよい関係の構築等が必要と思います。大変なご苦労も多かったと思います。私が、そのような役目を果たせるかどうか不安に思っております。至らないことが多々あると思います。いろいろな助言やご指摘等いただければ幸いです。よろしくお願ひ申し上げます。

私は、生まれも育ちも紫波町です。古舘小学校そして紫波第一中学校で学びました。先祖は、奥州藤原氏に仕え、頼朝に攻められた際にかなり偉い方の首を持って逃げてきたとの言い伝えがあります。塚がラ・フランス温泉館のそばにあり、曾祖父の代までは、月命日に、深夜にお参りしていたようです。高水寺そして斯波氏に仕

え、斯波氏が南部氏に滅ぼされた後は、城山がよく見える現在の地に落ち着いたとのことです。そのような関係で、縁者の方が多く、いろいろと助けていただいています。家業は、祖父の代までは農林業でした。私が子供のころは機械化が進んでおらず、田植えや稲刈りなど大勢の人々が集まりお祭りのようでした。私も、田植えや稲刈りそして植林などいろいろとお手伝いをしました。肥え担ぎもしました。懐かしく思い出されます。そのころに壮健だった方々が、高齢となり、元気をなくしていく姿を見るのはつらいことです。後期高齢者となり、がっかりしている方々を、今の日本を作ったのはあなた方で、高度功労者ですよと声をかけています。とりとめのない話になってしまいました。元気に健康で過ごせる社会を目指して医師会活動を進めていきたいと思ひます。よろしくお願ひ申し上げます。

紫波医報 2022.1 No.241 エッセイ：「オリンピックで雑感」

加藤胃腸科内科医院 加藤博巳

今回のオリンピックでは、日本人選手は大活躍でした。特に、柔道競技は目を見張るものがありました。オリンピックの前にルールの変更があり、その改訂が日本人選手にあっていただけと思われまひます。技の判定は一本と技ありまでで有効や効果はなくなり、技あり以上の技が出るまで試合時間は無制限になったことひです。有効や効果の判定はあいまいなところがあり、審判によりかなり違いがあります。制限時間が設定されている場合、技の優劣がなければ主審一人と副審二人の計三人での多数決になります。



技をかけた数などいろいろと判断材料はありますが、審判によって違いが出る可能性があり

ます。今回のルールの改訂は、あいまいさがなくすっきりとした勝負になるように設定されたと思います。

しかし、ある意味、残酷なルールです。あるレベル以上の選手では、実力が伯仲しており、元気なうちは、よほどのことがない限り技はかかりません。こうなると、勝敗を分けるのは、気力と体力です。医学的に言えば、筋肉内のグリコーゲンの量と心拍数の高さです。ということは、長時間の激しい練習に耐えた選手が有利と言えます。外国人選手は、自分が必要と判断した練習は積極的に行う傾向です。日本では、いまだに気力や今生が残っている様子です。有力な外国人選手が力尽き日本人選手に投げられる場面が

多々ありました。地獄のような練習の成果が出た瞬間です。心から祝福をしたいと思います。

スケートボードも大活躍でしたが、技の内容はよくわかりませんでした。技の難易度は、審判の得点で判断しようとしたのですが、よくわかりませんでした。解説者のスゲースゲーの連呼を聞きながら、すごい業だろうと思っていました。いずれにしても、その道に通じなければあまり楽しくないようです。

芸術もしかりで、先日テレビでショパンコンクールをぼんやり見ていましたが、超絶的な技巧に挑戦したピアニストにしか楽しめないだろうなと思いました。絵画や彫刻等も値札が付いていると安心します。

紫波医報 2025.7 No.248 巻頭言：「感謝と期待」

毎日猛暑が続いています。空梅雨の為いつの間にか梅雨明けになっていました。

温暖化が原因かな？その原因は化石燃料の使いすぎかな？と思いますが、現在の生活様式はなかなか変えることができません。特にエアコンディショナー(以後エアコンと略します)は必須となっています。十年位前まではエアコン無しでもなんとかなると思っていましたが、現在は頼らざるを得なくなっています。患者さんの中にはエアコンを昔のクーラーと同じ物と思い、スイッチを入れると冷房になると勘違いをして、暖房になっている場合が少なからずあるようです。診療中に「気をつけてね。」と時々声をかけています。

この度、釜谷 敏先生がご当選なさいました。(医療系でトップ当選でした)皆様のご協力やご支援に感謝を申し上げます。自民党への逆風が強いなか、全国では日本医師会の松本会長が、岩手県では本間会長が陣頭指揮をおとりになり、医師会をあげての努力が実ったものと思います。大変喜ばしいことです。医療行政は法的根拠を

紫波郡医師会 会長 加藤 博已
もって行われます。法律の整備は国会での議論の上なされます。その為には現在の医療の状況をよく理解し、的確な将来への展望をお持ちの方が適任です。釜谷先生、自見先生におかれましては充分にお力を発揮されることをご期待申し上げます。

今回の選挙は、SNSの情報が大きく影響を与えたと言われていています。その情報の内容もかなり偏ったものが多かったようです。国際的にも国粹主義的、保護貿易的風潮が強くなっているようです。

医療の現場でも、患者さんがSNSの情報を妄信している場合が多くなった様に思われます。発信者の利益に誘導する内容も多いようです。

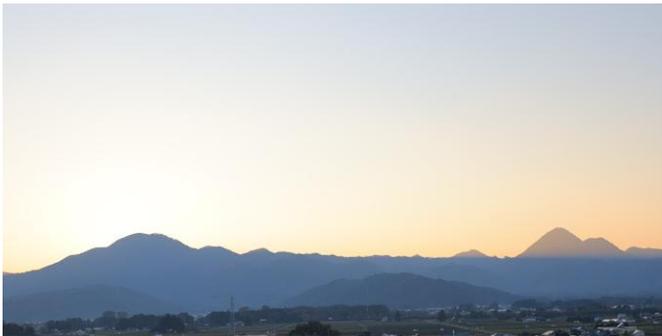
私は常々患者さんに「分からないことや不安なことがあったら聞いてください。」と声をかけています。以前、私のことを大変信用していると仰ってくださいました方がいます。

でも…一番に信用しているのは「みのもんたさん」でした。

紫波医報 2025.7 No.248 エッセイ：「思い出いろいろ」

加藤胃腸科内科医院 加藤 博巳

私の医院(生家)より西側を望むと壁のように山々が連なっています。南から新山、稻荷山、東根山、南昌山、赤林山、箱ヶ森山です。子供の頃からこの山々に沈む夕日をよく眺めていました。冬至には新山に、夏至には南昌山に沈みます。南昌山に沈む夕日を見ながら「明日から日が短くなるのか。」と思ったものです。夕暮れ時の景色にも色々あり、空全体が燃えるように紅く染まったり、仏様が住む世界が有るかのようによく光に包まれたりします。そしていつも「この山の向こうには何があるのだろう。」と漠然と考えたりしていました。



「東根山に沈む夕日が南昌山を照らす」 photo by s.ito

私の祖父は主に農林業を営んでおり田植えや稲刈り、畑仕事の他に山の見回り等のお手伝いをしました。山の見回りは家から往復約 20km の道のりを大きな籠を背負って歩きました。主に春の山菜や秋のきのこの時期でした。山に入ると道らしい道もなく、時には藪をかき分けて進みました。尾根を超える時には眺望が開け、遠くの山並みを見ては「どこの山だろうか。」と想いを馳せたものです。祖父は運動神経が良く、素手で雉やマムシ、岩魚、山女魚を捕まえることができました。子ども心にも「すごいなあ。」と感嘆しました。山菜やきのこ、また熊などの動物の生態についても教えて下さいました。そのおかげで私は自然を楽しみながら山に入ることが趣味になりました。



その祖父が遭難騒ぎを起こしたことがあります。約 60 年前の事です。玉川温泉へ湯治に行き、サルノコシカケを採りに山へ入り夜になっても戻って来ませんでした。遭難したと大騒ぎとなり、捜索隊も出動しました。父が現場へ駆けつけたところ、捜索隊の隊長に山の稜線まで案内され「この先へ進んだ人で戻って来た人はいないので、可能性のある場所を探します。」との説明を受け覚悟を決めたそうです。その時祖父は誰も戻って来たことの無い山中をどんどん進み、ひと晩で約 50km を歩き、大館市郊外の交番へ辿り着き「今から帰る。」と電話をしてくれました。祖母が、大騒ぎとなって捜索隊を出している事を話すと「勿体ない。」と電話の向こうで叫んだそうです。でも残念なことに既にその当時で一千万円位の経費がかかっていたという記憶があります(私の貯金も無くなりました)。

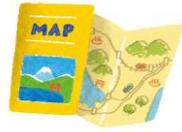


祖父はしっかり大きなサルノコシカケを数個持ち帰ってきました。当時でもサルノコシカケは高価でしたが、本当に高価なものとなりました。その頃風邪をひくと、そのサルノコシカケの煎じ汁(大変苦い)かドクダミの煎じ汁または大根のおろし汁(生姜汁入り)の三択でした。風邪をひいても見つからない様に平気を装っていました。

私は地図を見るのも大好きで特に地形に興味があり、地図で行ってみたい場所を見つけると、道に関係なく山に入ったものです。厳しい藪こ

ぎも多かったのですが目的の地形を見つけることが喜びでした。

藪から開けた所に出た際に
驚愕の表情の登山者と遭遇し



たことが時々ありました。学生時代に法医学の講義で、黒ずくめの服装で首に手拭いを巻いて山で作業をしていた男性が熊と間違えられて銃で撃たれた事例がありました。私も地元猟友会に連絡され、撃たれるのは嫌なので首の手拭いを鉢巻きに変えました。

地図と出会う前の小学校低学年の私の世界は見える範囲内で大変狭いものでしたが、地図を見るようになり、色々な発見をしました。

世界の中では日本はびっくりする位小さく、世界で一番高い山と思っていた富士山より高い山を無数に発見しました。大河だと思っていた北上川が世界水準では小川でした。色々な資料統計を見るのも好きで、イギリスの舗装率が約90%のデータにびっくりしました。当時、私の生家の前の国道4号線は、やっと舗装されたばかりでした。4号線以外で舗装された道路はありませんでした。

行ってみたい場所、見てみたい地形等、沢山ありましたが、現状では来世に託します。

(寄稿された最後の作品となりました。)

医報はなまき 246 号
H13.6.30

【提供：花巻市医師会 藤巻英二先生からご遺族へ】

よこがお

今回は、花巻温泉病院医局長(第一内科講師)の加藤博巳先生をご紹介します。先生は温泉病院が岩手医大附属になった平成5年からの生え抜きで、昨年度から猪又院長先生の後任として医報編集委員をされております。

先生は紫波町古館の出身で、お父様、達夫先生は同地の国道4号線沿いで内科医院を開業されており、加藤家は現在の古館ニュータウンを含む古館駅周辺までの一帯を所有していたという名門であります。さらに、お母様は初代民選岩手県知事の国分謙吉氏の家系で、お兄様(先生の伯父)は前二戸市長であります。また、お母様は当医師会の重鎮、瀬川忠吉先生の奥様と二戸(福岡高校)で同級生であり、我々の恩師佐藤俊一先生(現岩手医大副学長)もお二人と同級であります。ご兄弟は弟が一人で、やはり我々岩手医大第一内科の同門で、現在県立中央病院消化器科に勤務しております。



先生は昭和32年3月生まれで、幼少より秀才の誉れ高く、古館小・紫波一中ともにダントツの成績で、ほとんど勉強らしい勉強もしないで盛岡一高に進学いたしました。勉学のみならず、恵まれた体格を生かし柔道でも活躍され、中学時代より県下に名声がとどろき、高校進学後も数々のメダルを獲得し、「東北柔道界に加藤有り」と言われておりました。医学部志望でなければ山下のライバルとしてオリンピック出場も夢ではなかったと聞いております。

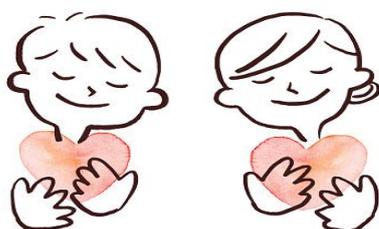
岩手医大に入学後も柔道部の主力で活躍し、東医体団体優勝の立役者でしたが、持ち前の人の良さが災いし、個人戦前夜には他校の接待攻勢を断りきれず、個人優勝の経験はなかったようです。

昭和 58 年に大学を卒業し、お母様と同級の佐藤教授との密約?から第一内科(消化器)に大学院生として入局しました。学位のテーマは「腹部超音波集団検診の方法論に関する研究」で、今でこそ常識となりましたが、当時は有用性の定まらなかった腹部超音波検査を集検に導入する方法論を確立しました。

先生の仕事の速さは定評があり、新入医局員当時、地方の某病院で先輩 2 人が学会に出かけてしまい、一人で午前の外来、胃腸透視、内視鏡、超音波検査をこなすことになりましたが、心配した先輩がお昼に電話を入れたときには既に全ての仕事を終えていたと聞きます(検査の写真が読影出来たかどうかは定かではありません)。

大学院卒業後、昭和 62 年から岩手県高次救急センターに勤務。先生は専ら夜の担当で、何人のドクターがいようが日中は医局のソファで熟睡しており、皆が帰った夕方から起き出し夜間診療に従事するといった感じで、まさに救急センターにはうってつけでした。

しかし、このままでは縁遠くなるとご両親の心配は募るばかりで、平成元年にご両親の勧めで現在の奥様、雅子様とお見合い。筆者をはじめ多くの独身先輩の手前、断り切れなかったと言いついておりましたが、実際は一目惚れで押しの手で結婚までこぎつけたようです。奥様のお父様も宮古信金理事長の要職にあり、名門の両家の結婚式は盛岡グランドホテルの 2 会場分を突き通し、大勢のコンパニオン付きの盛大なものでした。現在も夫婦中睦まじく、8 歳・3 歳の娘さん、5 歳の息子さんの 3 人の子宝に恵まれております。



先生の趣味の一つはゴルフで、柔道で鍛えた怪力で、始めた当初から方向はともかく飛距離はプロ並で、素振りをするとその音のすごさに必ず周囲の人が振り返る程でした。クラブが耐えきれず、スイング中にヘッドが飛んでしまったこともあります。救急センターの後に赴任した鹿角組合総合病院(平成 2 年から 5 年まで)でさらに揉まれ、シングル寸前まで行きましたが、チョコが高すぎたためか堅実になりすぎ、往年ほどの飛距離がなくなったのが残念です。また、カラオケも達人で、顔に似合わず甘い声で(失礼)、レパートリーはバラード系からキョクキョまで何でもこなします。

先生は体育会系出身らしく、先輩への気配りは完璧で、歯が浮くような「ヨイショ」も彼の手にかかるとはごく自然に聞こえるから不思議です。普通、ヨイショ人間は後輩には厳しいものですが、彼の場合後輩の面倒見もよく、また、場の雰囲気気まぜくになると、笑いを取ろうと得意の小話を連発し、周囲をなごませるように必死に努力します。ご家族も大切にし、いったいどこでストレスを発散しているか心配になる時があります。

彼の唯一の欠点は寝起きの悪さでしたが、現在は早起きして交通渋滞の盛岡から温泉病院まで遅刻せずに毎日通っているとのこと。また、質実剛健を旨とするあまり身なりには無頓着で、いつも破れたズボンばかり履いていましたが、今は小綺麗になっています。いずれも奥様の内助の賜に違い有りません。

お父様はまだまだお元気のご様子ですので、もうしばらく花巻の地で活躍され、我々花巻市医師会員を指導していただけるものと思っております。

取材：大沼、中館、小木田、藤巻

文：藤巻英二(現藤巻胃腸科内科クリニック)

表彰受章者

令和7年度叙勲
従六位旭日双光章

加藤胃腸科内科医院
加藤 博巳 先生

令和7年9月2日(9/1逝去)

令和7年度叙勲
瑞宝双光章(岩手県警察嘱託医)

志和診療所
城戸 正美 先生

令和7年11月3日

- ◆ 令和7年度岩手県医師会長表彰(役員功労) 令和7年7月13日
みちのく療育園メディカルセンター **伊東 宗行 先生**
- ◆ 令和7年度岩手県医師会長表彰(役員功労) 令和7年7月13日
平和台病院 **伴 亨 先生**
- ◆ 令和7年度岩手県医師会長表彰(役員功労) 令和7年7月13日
E.肌クリニック不来方 **遠藤 直樹 先生**
- ◆ 令和7年度岩手県医師会長表彰(地域功労) 令和7年7月13日
みちのく療育園メディカルセンター **藤原 拓也 先生**
- ◆ 令和7年度岩手県医師会長表彰(地域功労) 令和7年7月13日
南昌病院 **三浦 秀悦 先生**
- ◆ 令和7年度岩手県医師会長表彰(地域功労) 令和7年7月13日
はたふく医院 **籾福 公正 先生**
- ◆ 令和7年度岩手県医師会長表彰(地域功労) 令和7年7月13日
徳永整形外科 **徳永 三郎 先生**
- ◆ 令和7年度岩手県国民健康保険団体連合会理事長表彰 令和7年8月29日
加藤胃腸科内科医院 **加藤 博巳 先生**
- ◆ 令和7年度岩手県知事表彰(国民健康保険功労) 令和7年8月29日
岩手県立中央病院附属紫波地域診療センター **小野 満 先生**
- ◆ 令和7年度岩手県知事表彰(保健医療功労) 令和7年11月19日
平井医院 **平井 博夫 先生**



～紫波郡地域包括ケア推進支援センターから～

紫波郡医師会の皆様には、当支援センターの主催する多職種連携研修をはじめ、事業の実施にあたり、御理解と御協力をいただき厚く御礼を申し上げますとともに、令和8年も地域包括ケアシステムの構築や医療・介護連携の推進に引き続き御支援をお願い申し上げます。

◆ 令和7年中の主な取組み及び今後の予定

- 1 紫波郡医師会、紫波・矢巾両町をはじめ、医療・介護関係者や関係機関・団体等との連携のもとに、在宅療養の医療介護資源（サービス提供事業所、マンパワー）の拡充や担い手の疲弊防止、多職種連携、ネットワークづくりなどに取り組んでいます。
- 2 紫波町及び矢巾町における在宅医療と介護の連携等の推進に係る事項を協議するために設置されている「紫波郡地域包括ケア推進協議会（会長：紫波郡医師会顧問 木村宗孝先生）」において、主に次のとおりの報告等を行いました。
 - (1) 令和6年度第2回紫波郡地域包括ケア推進協議会：令和7年2月27日矢巾町保健福祉交流センター（さわやかハウス）にて開催
（主な協議内容）
 - 令和6年度紫波郡地域包括ケア推進支援センターの取組について
 - 紫波町・矢巾町における令和6年度の地域包括ケア（認知症支援施策・介護予防事業抜粋）の取組について
 - (2) 令和7年度第1回紫波郡地域包括ケア推進協議会：令和7年7月31日矢巾町保健福祉交流センター（さわやかハウス）にて開催
（主な協議内容）
 - 令和6年度紫波郡地域包括ケア推進協議会事業報告及び令和7年度事業の取組について
 - 令和7年度紫波郡地域包括ケア推進支援センターの取組方向について
 - 紫波町・矢巾町における令和7年度の地域包括ケア（認知症支援施策・介護予防事業抜粋）の事業計画について
 - (3) 今後の主な予定（令和7年1月～令和7年3月）
令和7年度第2回紫波郡地域包括ケア推進協議会における令和7年度事業報告等

◆ れんけい支援セットについて

れんけい支援セットのチラシ、わたしの安心連絡カード等をまとめたリーフレットについて、来院された患者様への配付について、医療機関の皆様にご協力いただき感謝申し上げます。

今後、一人暮らしの高齢者等の増加が見込まれる中であって、日頃の受診、入退院などの際に、ご家族やケアマネジャーの連絡先、心身の状況等の必要な情報を円滑に共有できるようにする必要がありますことから、広く周知を図ろうとするものです。

紫波郡医師会の皆様には、お手数をお掛けいたしますが、待合室等への配置や掲示などについて引き続き御協力いただければ幸いです。

なお、紫波郡歯科医師会並びに盛岡薬剤師会（紫波郡内薬局）からも、チラシ等の配置に御協力いただきありがとうございます。

◆ 研修会実施状況について

令和7年12月までに4つの研修会を開催し、延べ194人の参加をいただきました。研修会開催に当たり、お忙しい中紫波郡医師会の皆様にご協力いただき感謝申し上げます。

1 入退院等支援・連携研修（参加者 57人） 盛岡赤十字病院 小泉 進 氏	2 日常の療養支援に関する研修（参加者 51人） 講師 岩手医大 睡眠医療学科 教授 西島 嗣生 先生
3 ACPに関する研修（参加者 58人） 講師 碧祥寺住職 太田 宣承 氏	4 急変時の対応に関する研修（参加者 28人） 講師 盛岡地区広域消防組合消防本部警防課 救急係長 高橋 潤哉 氏

※かかりつけ医等認知症対応力向上研修：3月18日(水)18:30～ケアセンター南昌にて開催

編集後記

新春になり、晴れやかな気分で新年を迎えられた先生も多いと思われます。岩手出身のスポーツ選手も活躍する選手が増え、もうすぐミラノコルティナオリンピックの開催も楽しみな時期となってまいりました。今の時点では小林陵侑や岩渕麗楽、谷地宙、土屋正恵、吉田雪乃選手が内定しており紫波出身の選手もいますので応援にちからが入るとされます。

去年は当会として非常に大きな事件が起きました。現役であった加藤先生の急逝です。私も父の代からのお付き合いがあり、また兄からの代替わりの際も大変お世話になっておりました。皆様から寄せていただきました追悼文も拝見させていただきましたが、学生時代からの思い出や加藤先生の優しいお人柄、色々な才能の中

身を読ませていただきとても感慨深いものを感じました。私も理事として医師会に参加させていただき、これから益々加藤先生との親交を深めたいと思った矢先の出来事でした。

まだまだこれからもご活躍の場があったのに残念でなりません。この場をお借りして、感謝をお伝えしたいと思います。

これからも先生方のお力をお借りして、野崎先生のもと紫波郡医師会を盛り上げていければと考えております。

先生方の投稿（エッセイ・表紙の写真・絵画など何でも構いません）を随時お待ちしております。ご意見、ご要望がございましたら医師会事務局までお寄せください。

あいのの皮フ科クリニック 齊藤 恵

保養施設利用補助（一人一泊5,000円）を活用して

日頃の疲れを温泉で癒しませんか？

第1位 山の神温泉 優香苑	第2位 ホテル紫苑	第3位 花巻温泉 佳松園
-------------------------	---------------------	------------------------

2023年10月追加 “安比八幡平の食の宿 四季館彩冬”

福利厚生事業とは？ 祝金(出産・結婚・年祝)・弔慰金・見舞金・健康診断補助・保養施設/ゴルフ場利用補助 他
負担金：組合員4,000円/月 組合員の家族・従業員は一人につき800円/月

担当：川目
TEL.019-626-3880
FAX.019-626-3883

 **いわて医師協同組合**
IWATE MEDICAL COOPERATIVE ASSOCIATION
〒020-0024 盛岡市菜園二丁目8番20号 岩手県医師会館内

●発行 一般社団法人紫波郡医師会 発行責任者 野崎 有 一
編集委員 早坂 朗
齊藤 恵

〒028-3614 紫波郡矢巾町大字又兵工新田第5地割335番地
TEL:019-611-2211 FAX:019-611-2216